

イラク医療支援の流れ

社会状況	JVC の動き	JIM-NET のうごき	スタッフ体制・ドナー・ JVC の支援額実績
<u>(1991 年)</u> 1. 17-2. 28 湾岸戦争	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧・粉ミルク・医薬品の緊急支援 ・神奈川県との協力により水状況調査、浄化用塩素の支援 		
<u>2001 年</u> 米国にて 9. 11 事件			谷山博史（事務局長） 清水俊弘（総務担当）
<u>2002 年</u> 大量破壊兵器査察再開	<ul style="list-style-type: none"> ・デモ、声明 ・9・10 月 佐藤バグダッド病院訪問 		佐藤真紀（パレスチナ担当）
<u>2003 年</u> 3. 20 イラク戦争開戦 4. 9 フセイン政権崩壊 連合国暫定当局（CPA）発足 5. 1 米ブッシュ大統領「大規模戦闘終結」宣言 8. 19 国連バグダッド事務所 爆破事件、治安悪化 10 月 イラク復興支援会議（マドリード）	1. 29 佐藤イラク訪問 ・「イラクへの軍事攻撃」に対する緊急声明 3 月 清水イラク訪問 4. 16 バグダッド緊急人道支援、佐藤・吉野 看護師現地訪問。白血病の子供たちへの医療支援。 4-12 月 在ヨルダン・イラク人妊産婦支援（受益者 110 名・40%がイラク人） 5 月 佐藤・高橋清貴・高島理事イラク訪問 6 月 井下医師・吉野イラク訪問 7 月 原駐在 ・在イラク国連事務所爆破についての意見書 ・イラク戦争「復興」に関する緊急アピール		熊岡路也（代表） 清水俊弘（事務局長） 佐藤真紀（パレスチナ担当兼任） 吉野都 （イラク緊急支援担当看護師） 原文次郎：7 月よりバグダッド駐在 田村祐子 カリタス・ヨルダンとの協力 支援額：14, 619, 337 円

<p>2004年</p> <p>2月：自衛隊イラク派遣</p> <p>4月：ファッルージャへの米軍攻撃（1）</p> <p>日本人質事件</p> <p>6月：CPAから暫定政府へ主権移譲</p> <p>10月：イラク復興支援信託基金ドナー委員会東京会合</p> <p>11月：ファッルージャへの米軍攻撃（2）</p>	<p>4月：原がバグダッドより退避、ヨルダン駐在に切替え</p> <p>4月：日本人質事件に関する声明</p> <p>4月・11月：ファッルージャ緊急支援</p> <p>8月：ヨルダンにて支援会議（第1回JIM-NET支援会議）</p> <p>9月：「日本医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げ</p> <p>・イラク復興支援信託基金会合に向け要望</p>	<p>9月：発足</p> <p>小児がん（主に白血病）医療支援開始（主に医薬品支援）</p> <p>現在現地スタッフのイブラヒム氏とヨルダンで出会う。</p>	<p>佐藤真紀（イラク担当）</p> <p>吉野都（イラク担当・看護師）</p> <p>原文次郎：4月よりヨルダン駐在に</p> <p>支援額：16,641,000円</p>
<p>2005年</p> <p>4月：移行政府発足</p> <p>米軍、イラク西部攻撃</p> <p>10月：憲法承認</p> <p>12月：国民議会選挙</p> <p>米軍への抵抗運動活発化</p> <p>暫定政府要人暗殺続く</p> <p>年間約1000～150人新規小児癌患者が発生。</p> <p>小児癌患者は3000～5000人いると推計（KHCC キングフセイン癌センター他）</p> <p>UNICEF：深刻な栄養失調の子ど</p>	<p>佐藤真紀氏 JIM-NET に移籍、医薬品支援は JIM-NET に移管、JVC は側面支援。</p> <p>新たな支援活動のための調査を実施したが、立案には至らず。</p> <p>4-12月 在ヨルダン・イラク人妊産婦支援（8月看護師派遣、受益者72人見込み、うち33%がイラク人）</p> <p>バスラ母子保健病院（年間新患受付160・旧イヴン・ガスワン産婦人科病院）</p> <p>アル・サドル教育病院（旧サダム教育病院）</p> <p>9-10月 イラク西部（カイクム周辺）緊急支援</p> <p>・月80万円規模の医薬品支援実施</p>	<p>佐藤真紀氏 JIM-NET 移籍</p> <p>2月：第2回 JIM-NET アンマン会議開催。小児癌治療に関わるイラク人医師が10名以上参加。以後6ヶ月間の支援計画策定。</p> <p>7月：加盟団体間の支援に関する考えの違いが表面化。以後、調整役に留まらず、支援の実行団体として動いたためネットワークと加盟団体間の役割分担が不明確になる。</p> <p>9月：第3回アンマン会議</p> <p>医薬品支援800万円</p>	<p>田村祐子（イラク・パレスチナ担当）</p> <p>原文次郎（ヨルダン駐在）</p> <p>吉野都（看護師・短期）</p> <p>支援額：9,208,714円</p>

<p>もが全体の9%(2002年は4%)</p>	<p>JVCとして定常的な医薬品支援は年度末の終了を目指す</p>	<p>イブラヒム氏がバスラに戻り、院内学級を始める</p>	
<p>2006年 2月以降宗派抗争が激化、国内避難民増加 3月 国民議会招集 5月 正式政府発足 (マリキ首相) 7月 陸上自衛隊撤退 12月 フセイン元大統領の死刑執行</p>	<p>現地駐在ができない状況で活動の行き詰まり感があり、院内学級の支援の可能性を探ったが、結局 JIM-NET への支援を継続しつつ人道支援を求めるアドボカシー活動に重点を置くことにした。 医薬品はヨルダンで原が購入、バグダッド子ども福祉教育病院およびバグダッド中央小児教育病院に送った。 2月 長谷部、藤屋出張 7-10月 イラクでの医薬品供給状況に関する調査実施、報告書作成(和・英文) 12月 上記をもとに日本政府に対しイラク支援策の包括的な見直しを求める提言書提出 ・「イラク自衛隊撤収に関する公開質問状」提出 ・イラクに関する提言活動の評価書 ・原離任</p>	<p>3月: 第4回支援会合(アンマンにて) アル・サラーム総合病院(モスル)、バグダッド子ども福祉教育病院、バグダッド中央小児教育病院、バスラ母子保健病院、アル・サドル教育病院(バスラ)への支援。</p>	<p>田村祐子(イラク・パレスチナ担当) 原文次郎:ヨルダン駐在・12月離任</p> <p>支援額: 6,000,000円</p>
<p>2007年 2月:米軍21,500人増派(最大15万人) 3月:UNOCHA活動開始 春以降、治安改善傾向</p>	<p>4月 イラク特措法改正に関する公開質問状</p>	<p>バグダッド子ども福祉教育病院、バグダッド中央小児教育病院、モスル・イブン・アシール教育病院、バスラ産科小児病院への支援。</p>	<p>谷山博史(代表理事兼イラク担当) サポートチーム:高橋清貴・長谷部・広瀬・藤屋・清水(適宜) 11月~田村幸恵(ヨルダン駐在)</p>

<p>9月：英軍バスラから撤退、米も兵力削減を表明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WFP 食料支援 ・コレラ感染拡大 	<p>7-8月 イラク難民健康プログラム (カリタス・ヨルダンとの協力)</p> <p>8月 イブラヒム氏(JIM-NETスタッフ)来日、東京での報告の窓口</p> <p>8-12月 ファッルージャ、バグダッド国内避難民食糧支援(計3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国の対イラク新政策への懸念表明 <p>JIM-NET 運営委員会に谷山が参加、助言 「JIM-NET からの情報収集が不十分」</p>	<p>8月 イブラヒム氏来日、報告会</p>	<p>インターン(森若菜) カリタス・ヨルダンとの協力</p> <p><ドナー> 東京マイコープ、WE21 ほか 180万円 長崎童話館 500万円</p> <p>支援額：6,000,000円</p>
<p>2008年</p> <p>3-4月：バスラでイラク治安部隊による民兵掃討作戦</p> <p>治安改善</p> <p>クルドとバグダッドの確執表面化</p> <p>米軍2011年撤退を表明</p> <p>12月末 多国籍軍駐留期限 航空自衛隊撤退</p>	<p>チョコ300個(15万円分)買い取り INSANとの協力模索開始</p> <p>7月 ファッルージャ IDP&帰還民食料支援</p> <p>9月・12月・3月 中東パブリックフォーラム開催</p> <p>JIM-NET 運営委員会に谷山・清水が参加、運営支援</p>	<p>上記4病院への支援を継続。ヨルダン経由の薬剤の搬送が難しくなり、バグダッドへ送金して現地医師が調達するケースが増加。</p> <p>「バレンタイン義理の愛大作戦」</p> <p>4月 バスラ産科小児病院の機能麻痺、飲料水と食料の支援</p> <p>5-8月 同病院への給水活動(計22回)</p> <p>10月 イスタンブール会議(JVC原参加)</p> <p>ナナカリ病院(クルド自治区内アルビル)支援</p>	<p>谷山博史(代表理事兼任)</p> <p>原文次郎 (ヨルダン駐在9月～週3日勤務)</p> <p>サポートチーム：2007年度メンバー+佐伯(11月～スーダン担当兼任)</p> <p>インターン(森若菜 8月まで)</p> <p>パルシステム(89万円) WE21</p> <p>支援額：6,000,000円</p>

<p>2009年</p> <p>1月 地方議会選挙 米軍、治安「改善」喧伝</p>	<p>長崎童話館の寄付によりバスラ産科小児科病院に対し薬剤を支援</p> <p>1-2月 ファッルージャ IDP&帰還民食料支援</p> <p>2月 INSAN から活動提案書</p> <p>10月「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」結成</p> <p>12月「イラク戦争の検証を求める要望書」提出</p> <p>キルクーク地域社会支援開始</p>	<p>2月</p> <p>アカウントビリティ改善の試み</p>	<p>谷山博史（代表理事兼任） 原文次郎（ヨルダン駐在） インターン（オチ・ブルーノ）</p> <p>全日本民主医療機関連合会 30万円 パルシステム 904,890円+ 童話館 1,200万円</p> <p>支援額：12,000,000円 （JVC/JIM-NET の共同事業）</p>
<p>2010年</p>	<p>チョコ 700個買い取り（35万円分）</p>		<p>原文次郎（現地駐在・東京担当兼任） サポート： ・藤屋リカ（パレスチナ担当） ・谷山博史（代表理事）</p> <p>支援額：12,000,000円 （JVC/JIM-NET の共同事業）</p>
<p>2011年</p> <p>米軍完全撤退 戦争終結宣言</p>			<p>原文次郎（現地駐在・東京担当兼任） サポート： ・藤屋リカ（パレスチナ担当） ・谷山博史（代表理事）</p> <p>支援額：12,000,000円 （JVC/JIM-NET の共同事業）</p>
<p>2012年</p> <p>12月外務省「対イラク武力行</p>	<p>・平和ワークショップ評価・見直し ・イラク事業評価・見直し</p>	<p>2月：NPO法人化</p>	<p>原文次郎（現地駐在・東京担当兼任） サポートチーム：長谷部・藤屋・</p>

<p>使に関する我が国の対応」発表</p>			<p>津高・山崎・池田 事業評価チーム：谷山・磯田・山崎・池田・原 支援額：12,000,000円 （JVC/JIM-NETの共同事業）</p>
<p><u>2013年</u> イラク戦争から10年 再び情勢悪化</p>	<p>「イラク戦争10年」キャンペーン</p>		<p>原文次郎（現地駐在・東京担当兼任、5月末離任） イラクタスクチーム：長谷部・谷山由子・山崎勝・池田・中野 支援額：12,000,000円 （JVC/JIM-NETの共同事業）</p>